

[様式2 (汚染水処理対策委員会に報告し、一般公開となるものです)]

御提案書	
技術分野	① (「技術提案募集の内容」の該当番号を記載願います)
御提案件名	信頼性のある内面塗装等
御提案者	横田 辰男
<p>1. 技術等の概要 (特徴、仕様、性能、保有者など)</p> <p>ここでは、特殊な技術を紹介するものではありません。</p> <p>ただ、現在のボルト締め型タンクで漏洩が生じているので、溶接型タンクに切り替えようとしているのも分かりますが、溶接型タンクといえども決して万能ではないことを良くご理解していただき計画・工事を進める必要があることの当たり前のことを述べるだけです。しかし、相当数のタンクを増設するとなると、中にはどうしても思いもよらない施工不良等により漏洩等が起こる可能性のあることを十分ご理解していただきたく以下記載します。</p> <p>溶接型タンクですので鋼製タンクになりますが、内面を耐腐食性等の為、塗装をすることになりますが、その塗装において仕様選定はもとより、塗装の施工が非常に重要になります。一件、問題無く施工が終わり、耐圧試験も合格し、使用を開始してから数年の間に塗装不良で漏洩にいたる可能性もありますので、塗装の施工に当たっては十分にその専門家の指導を受けて実施する必要があります。</p> <p>塗装は下塗り、中塗り、仕上げ等に分けて実施しますが、その間の下地処理や、乾燥後の清浄度管理等に十分な施工担保があつて初めて健全な塗膜ができます。その間に粉塵等が付着したまま仕上げ塗装など行なってしまうと、粉塵のあつたところは塗膜が十分に形成れず、空隙など生じるとそのような箇所に水が浸漬し、中塗り、下塗り塗装があつても局所的な隙間腐食が生じることがありますので、塗装施工は十分に気をつけて施工する必要があります。</p> <p>また、内面塗装以外にも底板の外側から腐食が進行することもあります。底板はコンクリートで施工するにしても、コンクリート基礎と底板の間に水が入り込まないようにシール施工を行いますが、これらも十分に施工管理し実施する必要があるとともに、コンクリートも劣化しひび割れが生じることがありますし、シール剤も劣化します。</p> <p>従って、出来うれば屋内式のタンク貯蔵方式とすることが耐漏洩を担保するには優れていると思われま</p>	
<p>2. 備考 (以下の点など、可能な範囲で御記入いただけますようお願いいたします)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開発・実用化の状況 (国内外の現場や他産業での実績例、実用化見込み時期を含む) ・開発・実用化に向けた課題・留意点 ・その他 (特許等を保有している場合の参照情報等) 	